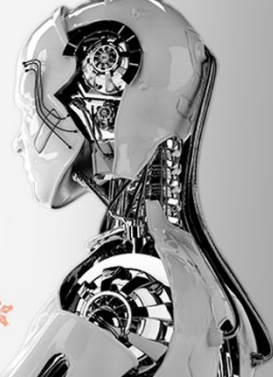


Robotics Report

新たな常識のはじまり

リモートワークを支える 技術の課題と展望

nikko am
fund academy



新型コロナウイルスの感染対策でリモートワーク（会社ではなく個別に離れた場所で業務を行なう勤務形態）が奨励され、人々の働き方が大きく変わろうとしています。今回は、その変化を支えるテクノロジーのメリットと課題、展望を探ってみます。

? リモートワークのメリットとは

リモートワークのメリットには、「感染症対策」のほか、移動時間やコスト削減、出退勤のストレス低減、組織体制の柔軟化などが挙げられます。さらに、プライベートの充実や健康・文化的な生活の促進などの副次的な効果もあります。

リモートワークに欠かせない遠隔会議ツールも充実しており、日米欧で認知度が高いサービスでは、「ZOOM」「Microsoft Teams」「ハングアウト Meet (Google)」「Skype for Business」などがあります。録画・録音（=保存）機能といった利便性はもちろんのこと、100人規模の同時参加でも安定した環境を保てるよう、継続的なサービス改善が進められています。

今後は、自然言語処理などAI（人工知能）を使った議事録自動作成や、多言語翻訳技術などを組み込んだサービスが期待されます。さらには、これらのデジタルデータをスケジュールやタスク毎に整理・要約・共有できるようなワークマネジメントツールの提供も期待されます。



※イメージです。

? 遠隔会議ツールの課題と展望は

遠隔会議ツールの課題は少なくありません。例えば「通信環境」では、通信速度が不安定になったり、利用の急増でサービス提供側のデータ処理能力やサーバー環境の強化が追いつかず、会議全体の質が落ちるといった課題です。また、情報漏洩といった「セキュリティ」の課題もあります。これらについて、通信環境では5G(第5世代移動通信サービス)の普及が待たれ、セキュリティではソフトウェア・ハードウェアの両方で技術開発が進められています。



※イメージです。

また、専門家からは「既存の遠隔会議ツールは、あくまで視覚と聴覚の一部をデジタルで置き換えたものに過ぎない。本来、人間はより多くの感覚で情報を収集・分析・判断している。それら感覚を総動員できる遠隔会議ツールの登場が待たれる」といった指摘もあります。

現在、一部の研究機関では、VR（仮想現実）などのロボティクス技術を使って、遠隔地にいる人と臨場感あふれる疑似的な対面会話が出来る技術開発が進められています。

このように、新型コロナウイルスの感染対策をきっかけに、リモートワーク関連技術のさらなる発展や関連市場の拡大が期待されます。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

(当レポートは、株式会社ロボティアの情報をもとに日興アセットマネジメントが作成しています。)

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。